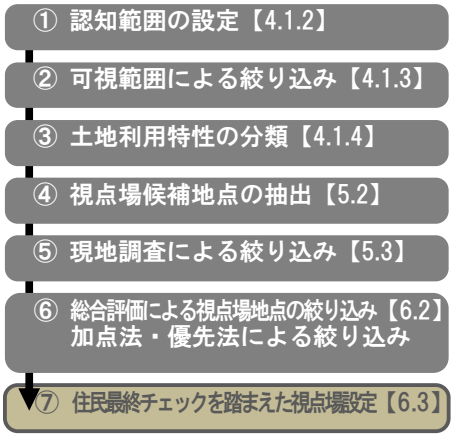
■参考資料「マニュアルに基づいた点施設における視点場設定実証事例」

実際の事業実施を想定して、本マニュアル第３部を用いた現地での視点場設定を行うことで、本マニュアル第３部で示された視点場設定における検討手法及び「視点場抽出チェックシート」（以下「チェックシート」）の妥当性、現地適応性を検証した。

１．実証事例の範囲

視点場設定のプロセス※1は、マニュアルで示されているとおりの手順に沿って行うが、本調査では実際に整備が行われないので、⑦住民最終チェックを踏まえた視点場設定【６．３】は行わず、あくまで実務担当者が本マニュアル第３部に基づいて技術な手法で行える⑥総合評価による視点場地点の絞り込み【６．２】までを目標とした。

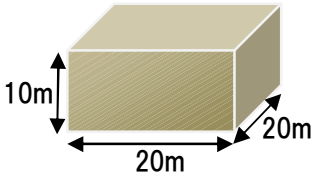
※1
『図 3-6 視点場設定のプロセス（Ｐ103）』、23頁『図 3-7 実践編の解説の流れ（Ｐ106）』参照



■図 3-36 視点場設定のプロセス

２．対象施設及び周辺の概要

対象施設は、点施設として、農業集落排水処理施設をモデルとした。施設の規模は右図に示すとおり、横幅 20m、奥行き 20m、高さ 10mであり、処理施設としては平均的な規模である。



■図 3-37 対象施設規模

対象施設周辺は、緩やかな台地を形成しており、水田や畑地、集落が存在し、対象施設はその比較的標高の低い地点に位置する。また、南北には山林が広がり、標高は徐々に高くなっている。さらに、地域資源として、主要道路や鉄道、観光地、学校、役場などが点在している。

３．視点場の設定

①認知範囲の設定【４．１．１】

視点場抽出範囲すなわち認知限界距離を対象施設の長辺を指標として設定する※2。

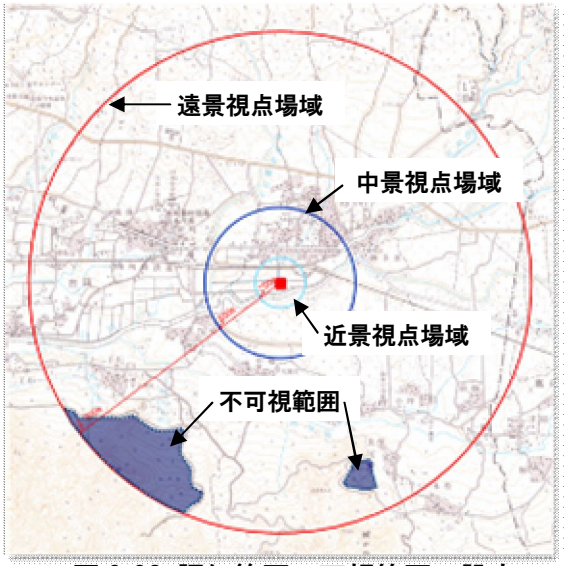
対象施設の長辺は、横幅 20m であり抽出範囲は、

$$100 \times W = 100 \times 20m = 2{,}000m$$

となる。

同様に遠景、中景、近景視点場域を以下のように設定した※3。

※2，※3
『図 3-9 点施設の施設規模と視点場抽出範囲（Ｐ109）』、『表 3-3 点施設の施設規模と視点場抽出範囲整理表（Ｐ109）』参照



■図 3-38 認知範囲、可視範囲の設定

■表 3-5 視距離による視点場抽出範囲の設定

遠景視点場域	2,000～600m
中景視点場域	600～200m
近景視点場域	200～　0m

②可視範囲による範囲の絞り込み【４．１．２】

地形、地物、移動可能の観点から、可視　範囲を絞り込むが、当該地区では、地物・移動可能からの絞り込みが地形図やその他の文献から判断できなかったので、地形上（山の斜面で隠れているため）明らかに不可視となる範囲を不可視範囲として地形図を塗りつぶし、抽出範囲から削除した（図 3-37 認知範囲、可視範囲の設定）。

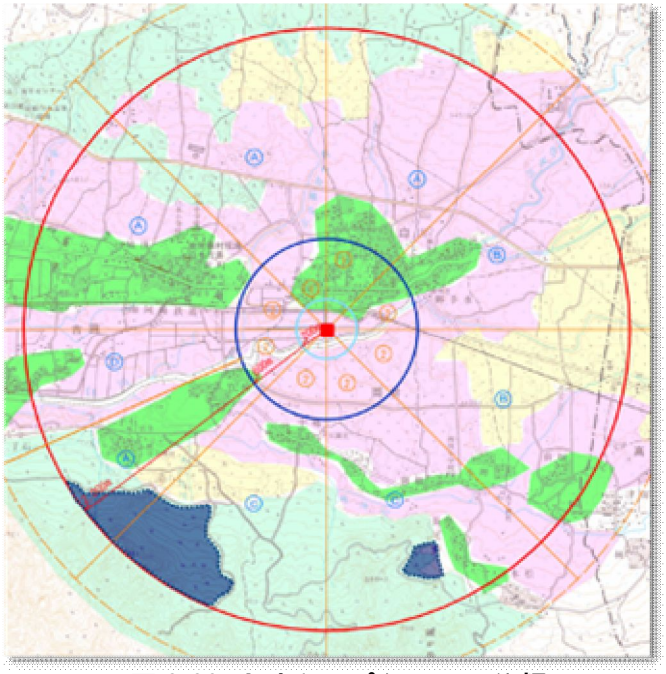
③土地利用状況からのパターン分類【４．１．３】

視点場抽出範囲を土地利用状況からパターン分類するが※4、まず地形図から土地利用状況を読み取り大まかに分類し、同時に八方位に分割しておく。この時、山林との境界など地形図から読み取ることが難しい場合は、航空写真のオルソ画像を参考にすると作業がスムーズであった。

土地利用パターンの分類について、本地区では、視点場（視点場－視対象の間）の土地利用についてみれば、近・中景域に広がる水田エリアと集落エリア、視対象の背後の土地利用についてみれば、当該地域が東西方向の谷上の地形に立地しており、南北方向と東西方向では背後の土地利用が大きく異なること（南北の場合、山（山林）、東西方向の場合、水田を主とした土地利用）、この２点に留意して、次のような大まかな分類、組み合わせの検討を行った。

土地利用パターンは、『図 3-38 土地利用パターンの分類』のように、視点場－視対象の土地利用を中、近景域の土地利用パターンの**①集落**、**②水田**の２パターンとし、視対象－副対象の土地利用は、**A；集落→水田→山林**、**B；水田→畑地**、**C；水田→山林**、**D；水田**の４パターンと分類した。

結果、これら視点場－視



■図 3-39 土地利用パターンの分類

■表 3-6 土地利用パターンの組み合わせ

	A	B	C	D
①	－	－	○	－
②	○	○	－	○

※4
土地利用状況からの視点場パターン分類の目的は、視点場（視点の周辺）と視対象の背後の景観の組み合わせについて大まかなパターンを得ることにある
故に、実際には細かな土地利用区分にもとづく厳密さ以上に、パターンとして捉えることが重要となる

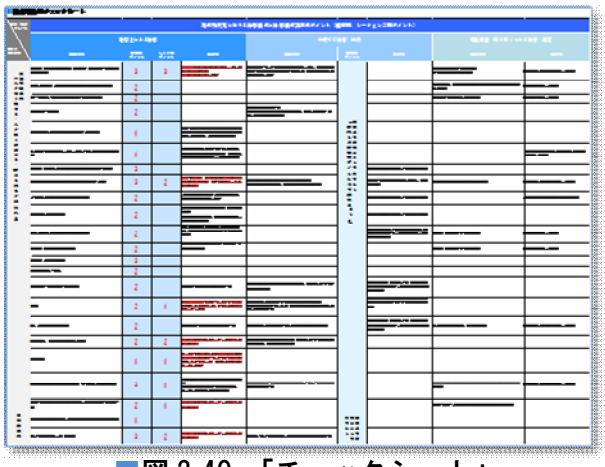
対象、視対象－副対象の組み合わせを検討したところ、合計４つのパターンが抽出され、②－Ａが４方位と最も多く、①－Ｃ，②－Ｂが２方位、②－Ｄが１方位となった（表 3-6 土地利用パターンの組み合わせ）。

視点場候補地の抽出状況

※５
巻末資料『■視点場抽出チェックシート』参照

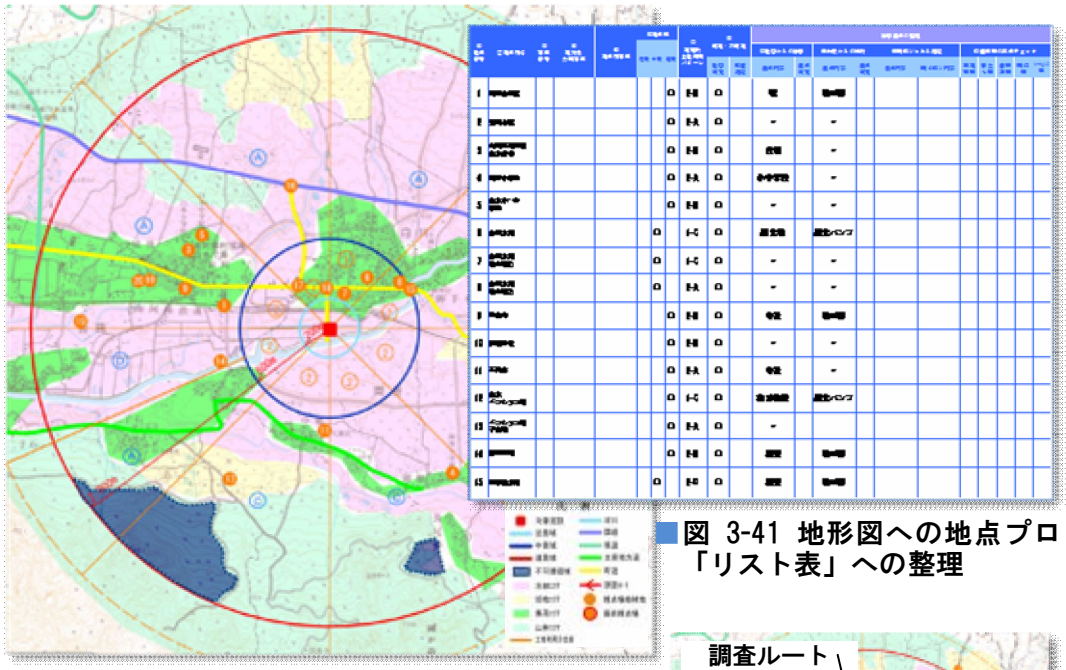
④視点場候補地点の抽出【５．２】

①②で設定された範囲より、地図や既存文献資料などを基に、主要道路、河川、地域資源などを地形図を用いて整理し、「チェックシート」※5の留意事項や抽出観点を参考に視点場候補地として、駅、役場、小学校、水源地、駐車場、神社仏閣、ペンション村、橋、交差点など２０箇所を抽出した。そして、地形図に位置をプロットし、「視点場候補地点リスト整理表」※6（以下「リスト表」）に地点番号、視点場名、視点場域、土地利用パターンなどここまでの検討により分かった内容を整理した。



■図 3-40 「チェックシート」

※６
巻末資料『■視点場候補地点リスト整理表』参照

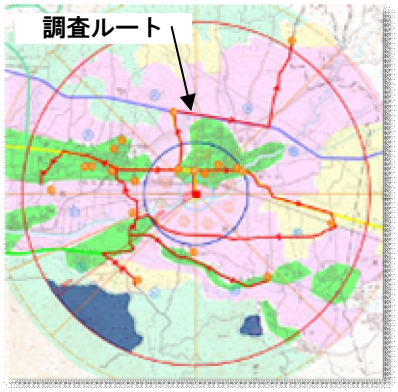


■図 3-41 地形図への地点プロット「リスト表」への整理

⑤現地調査による絞り込み【５．３】

視点場に至るアクセス路や対象施設の見え隠れ状態などシークェンス性を考慮し※7、一般的に使用される主要道路を基本として、抽出した視点場候補地点を効率よく廻れるよう調査ルートを設定し（図 3-42 調査ルートの設定）、現地での可視、不可視や見え方などを確認するた

※７
『５．シークェンス度のチェック（P142）』参照



■図 3-42 調査ルートの設定

め、現地踏査を行った。

踏査では、ルートを示した地形図及び「リスト表」を用い、現地で実際に可視、不可視を確認し、「リスト表」に記入し、視点場から整備対象方向、また視点場の状況の写真を撮影した。撮影は、一般的なコンパクトデジタルカメラ（レンズ 28mm）を使用し、三脚は使用せず、カメラ位置が 150cm 程度の高さになるよう留意し手持で行った※8。

可視と判断された視点場候補地は、視対象方向並びに視点場を撮影し、不可視と判断された視点場候補地からは外すが、視点場は撮影し、「リスト表」に整理した。また、現地調査により新たに視点場候補地が２箇所（水源付近の橋、観光体験農園）見つかったため、候補地として、写真撮影と「リストへ表」への追加を行った。

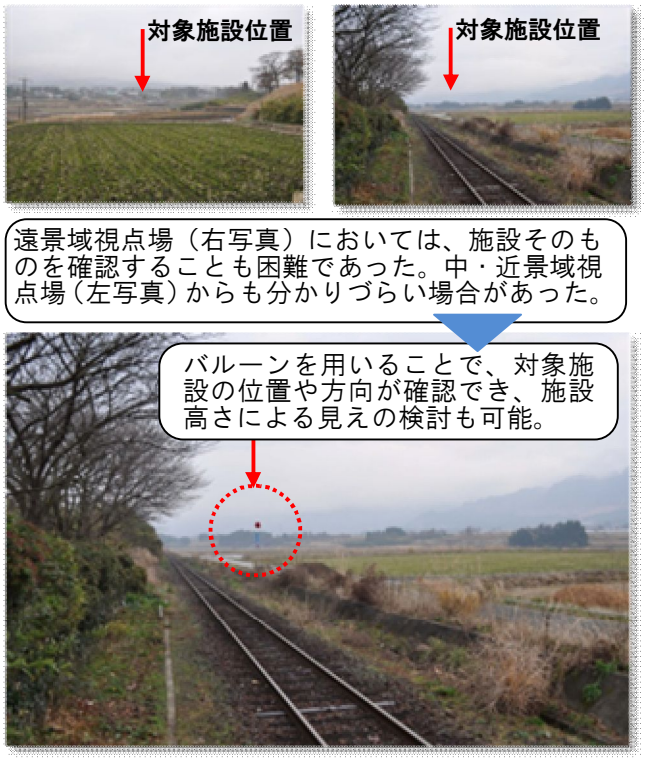
結果、追加した２つの候補地を含め、ここまでで視点場候補地点は９つに絞り込まれた。

※8
『３．現地踏査の手順と具体的な方法（P135）』参照
本来は三脚を用い、カメラ位置も正しく（レンズ中心高 150cm）セットして撮影を行うが、本調査では、調査効率性を優先し、手持ちにて撮影を行ったが、撮影の際にはカメラ位置の大きなズレや手ブレが無いよう注意した。

■図 3-43 現地踏査および結果の整理

現地調査では、視点場から可視・不可視の確認や写真撮影を行う際に、対象施設、その方向を確認することが難しいことがある。

今回の実証調査でも、既に施設そのものが目印として存在しているにも関わらず、遠景域では対象施設方向を確認するのに苦慮した。施設が存在していない状況で、かつ周辺に目立った目印が無い場合であれば、なおのこと確認が難しくなる場合がある。特に、対象施設の高さを推定する場合、その指標となる目印を予定地付

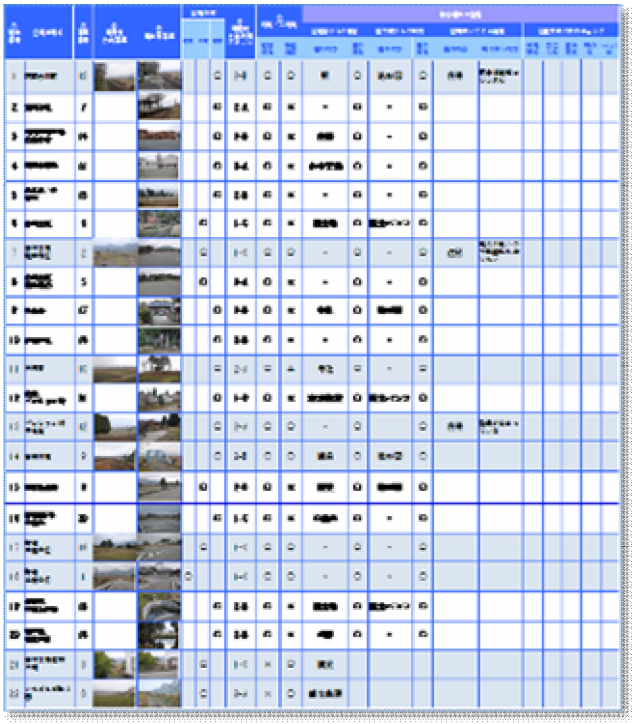


近で見つけることとなり、さらなる工夫が必要となる。

この解決として、最も簡単で有効な方法としてバルーンを目印として用いる方法が考えられる。

バルーンを用いることで、遠景からでも比較的容易に対象施設方向を確認することができ、バルーンを上下することで、対象施設の整備予定高さも確認、検討することができる（10m までは見えないが、バルーンを 15m に上げると見えるようになる等）。

次に現地調査では、地図・文献より得られた視点場候補地の抽出観点の妥当性（観光地にどのくらい人が来ているのかなど）も確認する。さらに、地域住民への簡易聞き取り調査を行い※9、思い入れ・関わりを踏まえ、観点の妥当性を判定し「リスト表」に○×を記入し、観点内容と聞き取り内容についても「リスト表」に記入した。



■図 3-44 現地調査結果整理

そして、現地調査により絞り込まれた視点場候補地について、被視頻度、目立ち度、意味深度、関係度、シークェンス度の重要度の評点化を行った※10。評点化は、「チェックシート」の観点別の評点（点数）を参考に「リスト表」に点数を記入した。

評点化にあたっては、現地調査や聞き取りで得られた情報を踏まえ、「チェックシート」の項目に該当する重要度のポイントに従い点数を与えた。シークェンス度についても「チェックシート」の該当ポイントを与えた。

※9
『5.3.2 聞き取りによるポイントチェック（P138)』参照
本来、現地踏査前に聞き取りを行うが、本調査では、現地踏査と同時に簡易的な聞き取り調査を行い抽出観点のチェックを行った。

※10
『6．重要度の評点化（P146)』参照

■重要度の評点化

地点番号１（Ｓ駅）の評点は、以下のように算出した。

被視頻度　２（駅）＋１（鉄道）＝３
目立ち度　３（地域のシンボル）
意味深度　２（イベント開催場）
関係度　　３（副対象にランドマーク）
ｼｰｸｪﾝｽ度　１（鉄道）
他同様にして評点化を行った。